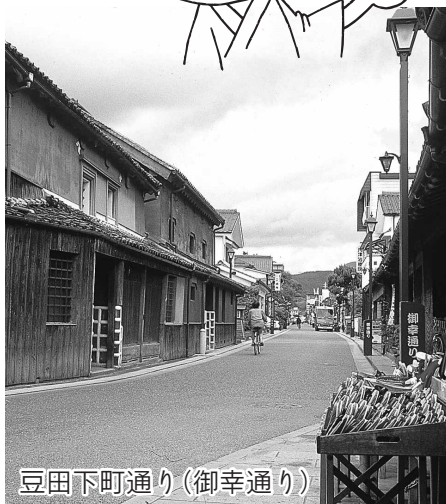
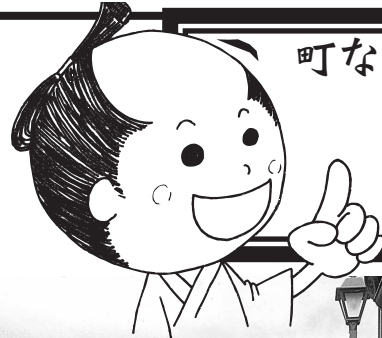


町なみ散策をさらに楽しくする

豆田まめ知識

かわら版



平成12年 下町通り(御幸通り)は電線類の地下埋設工事完成。
平成13年 国土交通省の「美しい町並大賞」を受賞。
平成16年 『重要伝統的建造物群保存地区に選定。』
平成21年 上町通りの無電柱化工事完成。

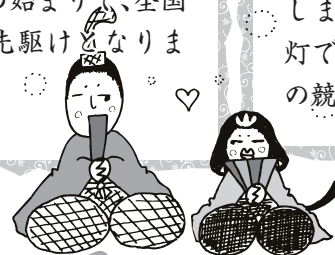
豆田地区(約10.7ha)は、歴史的町並みが評価され、平成16年12月『重要伝統的建造物群保存地区』(伝建地区)として国の選定を受けました。これは、「古い町並みを大事にしよう。」という国の取り組みです。時代の流れの中で、一度は静かになってしまった豆田町でしたが、今、豆田の人達は古い歴史を持つ町並みを大切に守りながら生かしていると考えています。

豆田のまつり

天領ひたおひなまつり

毎年2月15日～3月31日

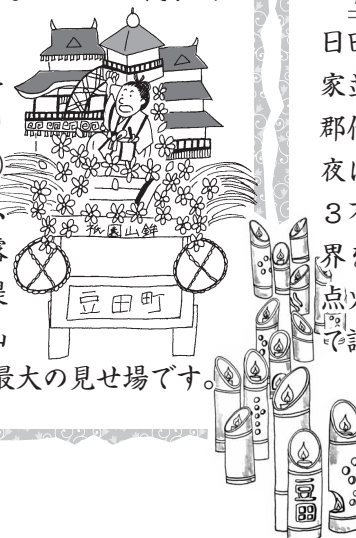
豆田の旧家で代々受け継がれてきた貴重なお雛様が公開されています。昭和59年に草野本家で公開されたのが祭りの始まりで、全国のお雛祭りの先駆けとなりました。



日田祇園祭

毎年7月20日過ぎの土曜・日曜
寛文5年(1665)には行われとされ、350年の歴史をもつ日田の代表的な夏祭り。

豆田地区では4基の山鉾(飾りを施した山車)が町を巡行し、優雅な姿を披露します。特に提灯で飾った晩山の競い合いは、最大の見せ場です。



天領まつり

毎年11月の第2土曜・日曜
千年あかり
毎年11月の第2金・土・日の夜

日田が天領だった時代を偲ぶ祭り。古き家並が続く豆田で再現される約200名の郡代着任行列は見ものです。夜は花月川の河川敷や豆田の町中に約3万本の竹灯籠の明かりが幻想的な世界を創ります。点火ボランティアとして誰でも参加出来ます。



豆田Q&A

豆田町の名前の由来は？

江戸初期の史料ではこの町は豆田号永山町と記され、天和2年(1682年)の古地図では「上町下町南北長166間」「横町東西長59間」の「豆田町」と記されています。なお、この地は元々荒地のため大豆が耕作されていたことから「豆の田」から「豆田」の地名が付いたのではと推測されています。



貞享5年(1688)の豆田の古地図より

軒下の竹かざりはなあに？

「パイパイ」と言います。祇園祭の山鉾の両側に飾るもので、水しぶきを表し、山鉾本体が家に直接当たらぬ様にしている役目を持っています。華飾りと一緒に魔除けとして軒下に飾られます。



日田は何故天領になったの？

九州の交通の要衝であった日田を豊臣秀吉が文禄3年(1594)に直轄地とし、関が原の戦い後は徳川一門が支配する土地となりました。そして明和4年(1767年)以降はこの地が天領のなかでは全国2位の石高(16万2千石)を有し、また九州の外様藩(島津、細川、鍋島、黒田など)の動向を監視するため西国郡代に昇格し、「九州探題」とも呼ばれました。

豆田が生んだ偉大な儒学者広瀬淡窓について

日田ゆるキャラ「たんそうさん」頭をなせると、頭が良くなるそうよ!

広瀬淡窓の咸宜園での教育理念は？

- ①スタートは皆一緒
入門時は学歴や年齢や身分を問う事なく全ての門下生を平等に扱いました。これを淡窓の「三奪法」と言います。
- ②開かれた成績評価制度で実力を伸ばす
毎月の試業(試験)を基に成績を評価し、級位に位置付け能力の向上を行いました。この評価方法を「月旦評」と言います。

咸宜園から育った門下生にはどのような人が？

大村益次郎(兵学者)、長三洲(文部大丞)、清浦圭吾(総理大臣)、高野長英(蘭学者)上野彦馬(写真術の先駆者)、横田國臣(最高裁判所長官)、松田道之(東京府知事)他多数
文化2年(1805)より閉塾する明治30年(1897)まで5000名を超える門下生が育ったと言われています。

咸宜園を世界遺産に登録する活動を行っているのはなぜ？

現在日田市では茨城県水戸市の弘道館、栃木県足利市の足利学校、岡山県備前市の閑谷学校と連携し、「近世日本の学問・遺産教育群」として世界文化遺産に登録する活動を行っています。これは、これらの教育が近代日本を創り上げた基礎となるものであり、後世に残すべき遺産と考えたからです。

詳細は<http://www.city.hita.oita.jp/kangien/>にアクセスしてね!

豆田町の歴史

江戸時代の始め、豆田町は丸山町という名前でお城を中心にしてきた城下町でした。丸山城はのちに永山城と呼ばれるようになり、町の名前も永山町になりました。

一六三九年には日田は天領となり永山城の麓に代官所(通称永山布政所)が設置され、花月川南側の町は豆田町と呼ばれるようになりました。
※代官所とは殿様が地方の領地を治めるために置いたお役所のようなものです。

日田は数度の大名領や大名預かり地の時代を挟みつつ幕末まで徳川幕府の直轄地として重要視されました。天領は全国に約五十ヶ所ありましたが、特に重要な場所四ヶ所には「郡代役所」が置かれました。(江戸・高山・笠松・日田)
明和四年(一七六七)日田は「西国筋郡代」に昇格し九州大名のお目付け役となり大変重要な役割を果たしました。

山紫水明で豊かな土地、しかも北部九州のほぼ真ん中にある日田は、交通の要所でした。代官所のお膝元にあった豆田町には各地から大名や商人が集まりひととき賑わいをみせていました。

豆田町の商人達は全国から集まる大名などを相手に商売をし、大活躍をして豊かになりました。こうして豆田町は商家町として繁栄していったのです。

ところが、明治時代に入り江戸幕府がなくなると大名・商人達の行き来もなくなり、豆田町は少しずつ静かな町になっていきました。しかし、昭和50年代に入り、古い町並みを活かした町づくりが進められ、昭和54年の天領まつりの開始、昭和59年のお雛まつりの開始、平成2年の山鉾完全復活などの取り組みがなされ、町に活気が戻って来ました。